

アナログプレイヤーの比較試聴(25)

—モーツアルトを聴く(25)—

1. 始めに

前報(24)に引き続き、アナログプレイヤー3機種 of 比較試聴を実施していきます。

2. アナログプレイヤーの比較試聴方法

アナログプレイヤー3機種 of 試聴経路は、ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した前報(18)と同様です。

音源は、モーツアルト of アナログ盤を使用していきますが、今回は管楽アンサンブル of 曲です。

ドイツグラモフォン 2530 715

モーツアルト フルートとハープのための協奏曲

シンフォニア Es-dur

ヴォルフガン・シュルツ (フルート)

ニカノール・ザバレタ (ハープ)

カール・ベーム指揮ウイーンフィル

harmonia mundi ULX-3158-H

モーツアルト クラリネット協奏曲

ホルン協奏曲第3番

ハンス・ダインツァー (クラリネット)

フーベルト・クリュツ (ホルン)

コレギウムアウレウム合奏団

今回も、各プレイヤーにターンテーブルアキュライザーTACU-1 を使用していきます。

3. アナログプレイヤーの比較試聴結果

ドイツグラモフォン盤は ZANDEN Model120 経由 of LINN LP-12 と ThorensTD124 では、TELDEC、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

harmonia mundi 盤は、ZANDEN Model120 経由 of LINN LP-12 と ThorensTD124 では、EMI、正相、第4時定数 Low で聴いていきます。

ドイツグラモフォン盤 of ThorensTD124 の再生では、フルートとハープのための協奏曲も、管楽器が活躍するシンフォニアも、少々肌理は粗いですが、明るく闊達な音です。

LINN LP-12 の再生では、ソフトでやさしく細かい音もでています。

Grrad401 の再生では、暖かく厚みのある音を聴かせてくれます。

harmonia mundi 盤の ThorensTD124 の再生では、クラリネット協奏曲もホルン協奏曲第 3 番も明るく躍動的な音で、クラリネットとホルンの質感も十分です。

LINN LP-12 の再生では、繊細でディテールの再現に優れています。

Grrad401 の再生では、多少肌理は粗いですが、ThorensTD124 に似て明るく躍動的な音を聴かせてくれます。

4. まとめ

ThorensTD124 と Grrad401 の再生経路を変更した結果も、3機種 3 様の再生パフォーマンスが確認できましたが、ターンテーブルアキュライザーTACU-1 の効果もあって、ドイツグラモフォン盤、harmonia mundi 盤それぞれの特徴が聴き取れました。

以上